

## 地域資源活用部門

### 貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり

元近木川流域自然大学研究会代表 ○橋本夏次

#### 1. 活動方針・目的

まちづくりとは、「自然の息づかいを感じて活動する、地域社会の形成」とし、「地域の目線で考え、地域の動きで活動する」ことをかけ、貝塚市の豊かな自然を見つめなおし、目的を、一先人が築いてきた「人と自然とのいい関係」再発見から新たなコミュニティづくりにおく。

#### 2. 活動内容

平成元年から、7年まで「花いっぱい運動」を大阪府立貝塚高校園芸科(当時)の生徒たちを中心に町会、婦人会、小・中学校、幼稚園、保育所が参加全市的に活動した。平成2年大阪鶴見緑地で開催された「花の万博」に市花「コスモス」の花壇を3回出展・金・銀・銅賞を受賞。

これをまちづくりに活かすため、その拠点施設まちの小さな博物館「市立自然遊学館」平成5年開設。さらに平成5・9年と二度全国ワーストワンになった近木川の水質改善のため、平成「近木っ子探検隊」を結成、「近木川の豊かな自然」再発見し、ここで「遊びから学ぶ」活動が定着した。さらに、総合学習・環境学習の始まりが追い風となって近木川全域にその活動が広がった。平成10年にワーストワン脱却し、その基準となるBODの数値(平成9年二度目のワーストワン)21mg/lから平成20年からは5前後で推移している。

活動は、探検隊から始まり、環境学習、それらをサポートする近木っ子会議平成8年結成、「子どもと大人の井戸端会議」の開催等、活動の動きに合わせた取り組みを行ってきた。

さらに継続するためのサポートができる組織の結成。くわえて活動で汗をかいた人に光が当たるように、合わせてプラットフォームの役割を担う近木川市民フォーラムは平成7年から22年まで毎年開催してきた。子ども中心の取組は全国的に評価され、国土交通省、文部科学省で紹介されている。2009年には「水都2009社会実験事業」で採択され「見て、聞いて、感じて、夢を水都に」をテーマに、小・中・高校生が参加、幅約2m長さ約14mの大絵地図を作成しその感性の豊かな表現に大人を感動させた。総括は、子どもの提案をまちづくりに：近木川流域自然大学：海・山・川の分校

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

① 活動で汗をかく人が主役 ② 取り組みは常にフォーラム等で全市的に対応 ③ 活動の熟度に応じた対応(サポート) ④ 子どものからの提案「遊べる近木川にしてください」に対応して⇒近木川流域自然大学：海・山・川の分校とし、貝塚市の施作計画に位置付けした。海山の分校は既設の施設、川の分校づくりを子どもの参画で進めた。

この取り組みは貝塚の自然のシンボルとしての近木川をまちづくりの柱にして、そこに存在する「ため池と近木川の関わり、さらに近木川に存在する「川ガキ文化」の再構築を目指すもので、貝塚市全体を束ねている。

#### 4. 今後の課題等

筆者は、平成14年3月、定年1年早めに退職、市立自然遊学館の非常勤嘱託としてこの活動に専念した。しかし平成22年退職後は、行政の組織でかわりを持つことがむづかしくなった。そのとき、愛知産業大学大学院・延藤安弘教授(当時)の指導で大学院修士を終了、この活動を普遍化することができた。

# 貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり

橋本夏次

貝塚市の位置と概要

自然：海(二色の浜)、山(和泉葛城山)、川(近木川)、国の天然記念物「ブナの原生林」

市域の約4割(1762ha) 近郊緑地

歴史：本願寺が願泉寺(国重要文化財)に 寺内町が形成 国宝「釘無堂」「水間寺」  
文化：大小約600のため池と近木川を繋ぐ水文化 水と人とのかかわり 「川カキ」

平成の大修理を終えた願泉寺(国重要文化財)

和泉名所図会から



人口約9万人  
面積約44km<sup>2</sup>



1961年から約40年、貝塚市は市として、1971年6月1日、88年から6年、高校生・市民中心で「新しいまちづくり」を掲げて、サード・コンソーシアム的な発展を遂げ、自ら現場で汗をかき、関係者から賞賛を得た。「貝塚の豊かな自然」を次世代へ継承する活動につながるためその拠点施設「市立自然遊学館」の設置を提案、83年開館、95年まで開いた。  
02年3月開館、7月から22年3月まで市立自然遊学館非営利活動法人、22年4月大学助産士課程に学び24年3月終了(橋本夏次)



近木川は、東西約14.3km、南北約4kmの細長い市域を縦断する全長約18km流域面積約28km<sup>2</sup>。源流は、金剛生駒紀泉国定公園 和泉葛城山(857.3m)にある。山頂には国の天然記念物「ブナの原生林」がある。

和泉葛城山

ブナ林

金剛生駒紀泉国定公園



アマモ群生地約5千m<sup>2</sup>

昭和30年代の「二色の浜」

現在の二色浜

国宝釘無堂



魚の荷揚げを手伝う子どもたち



7 フン太鼓 大正13年頃



3

①②子どもたちは魚の荷揚げを手伝い駄賃は魚。海の恵みを知り、豊かさを知る。③④⑤貝塚地先の海辺の様子⑥右下は潮干狩り 昭和30年代前半 (出典・貝塚市史)

It is an appearance in an old beach. Help to which the child carries the fish is done. It is a present beach.



4 子どもたちには遊びの歴史があります



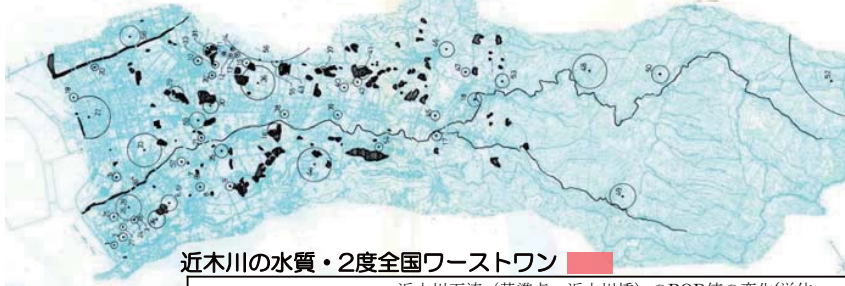
5



6



昭和30年代大小約600のため池約8割が近木川から利水



近木川の水質・2度全国ワーストワン

年度	実施日	町会名	世帯数	削減効果				
				BOD	COD	SS	油分	MBAS
6	平成6年12月1日~10日	和泉台	603	12.0%	—	—	14.0%	10.0%
7	平成8年2月1日~10日	畠中	335	40.0%	25.0%	23.0%	20.0%	—
8	平成8年12月2日~11日	府宮貝塚森府住自治	477	18.5%	24.0%	15.0%	39.0%	—
9	平成10年3月1日~10日	三ツ松西ノ町	81	26.3%	28.3%	44.2%	8.4%	—
10	平成12年3月1日~10日	旭ヶ丘	180	18.8%	—	—	—	—
	平成12年3月6日~15日	馬場	250	41.9%	—	—	70.0%	—

生活排水実践活動：BOD削減効果4割以上

### 「多様な場の形成」

貝塚市立自然遊学館  
近木っ子探検隊→

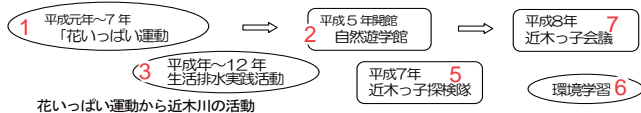
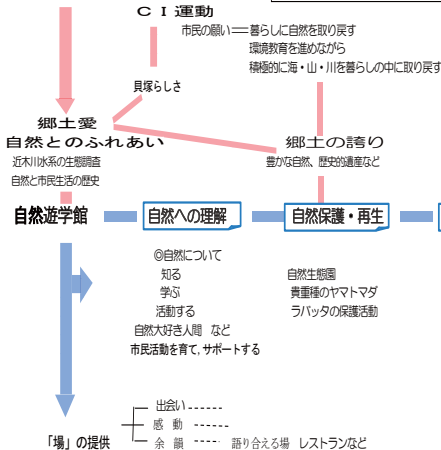


写真5・6・7・8近木っ子探検隊の活動 (近木川河口)



市民の森、自然遊学館施設体系  
基本方針  
市民のふるさと志向を自然とのふれあいの中に取り入れ、郷土愛を育み「人と自然の共生」を奨励。

貝塚市の豊かな自然を次世代へ継承する、市民活動を育てる拠点施設



1992年~99年昆虫採集活動(ボランティア)  
年間活動日数(最大100日以上)  
採集336種1443個体  
蝶 67種 トンボ45種

都市像  
豊かな自然と共存する産業文化都市

近木川ルネッサンス  
近木川流域自然大学  
山の分校(海の字の里)  
海の分校(自然遊学館)  
川の分校 ⇒ 子どもの顔

写真10 11ハクセンシオマネキ

環境学習 小学校・中学校、高校

友だちがこけたので笑ったら自分もこけた。でも魚が跳ねたの見てよかった

小学校の環境学習(出前教室)

行政のサポート⇒ゴミの処分

**近木川 ゴミを拾う大会**

近木川が大ピンチです！  
たいへんよごれています。  
そこでみなさんの力がひつようです。  
みんなで、ゴミをひらいに行きませんか？

日時 11月17日(土) 午後2時~4時  
集合場所 和泉平成大橋  
(午後1時半に学校へきて先生たちと  
いっしょに行ってもかまいません。)  
持ち物 長そで、長ズボン、軍手、  
ハサミ、スーパーの袋

近木川を守る隊員より  
永見、永橋、古城、出原、戸田、福井

ぼくたちは、近木川のごみが多いのでみんなに  
かけました。そして30人ぐらいの人がごみを拾  
うのを協力してくれました。それでごみぶくろ14こぐらいご  
みを入れました。最初はとももたふかたけど拾った後  
はとももれいにおよぶかたです。ぼくが大人になる  
ころには昔の近木川みたいにきれいにならしたい  
い。そのためにも近木川のごみを拾ってほしい  
です。

近木川でプララント  
を採りてを横断  
する時に友だちが  
こけたので笑って  
自分もこけた。でも  
魚が跳ねたのを見て  
よかった



川ガキその1遊び

↑南小学校 4年生自作の呼びかけ文と清掃⇒

② 中学生の出前講座



一番感動した写真は、近木川の四季でした。貝塚は小さな市かもしれないけれど、他の市や県に負けていないのではないかと思います。生徒(中3)の感想。

その2自然を尊敬

その3即行動

③高校で出前教室(平成12年9月2日)

子どもの感想を看板にして河川管理者と一緒に設置する。  
管理者と高校生をつなぐ大人との協働

自分たちで川をよごしているのに自分たちで掃除するのはなんかへん。はじめっから汚せへんかったらいいのに。(感想文の一部)

←看板たてた後の感想

看板に



この看板は、自分たちで川をよごしているのに自分たちで掃除するのはなんかへん。はじめっから汚せへんかったらいいのに。(感想文の一部)

看板に  
自分たちで川をよごしているのに自分たちで掃除するのはなんかへん。はじめっから汚せへんかったらいいのに。(感想文の一部)

看板たてた後の感想  
今日は、近木川の水がきれいだった。自分たちで川をよごしているのに自分たちで掃除するのはなんかへん。はじめっから汚せへんかったらいいのに。(感想文の一部)

「川ガキ」になる環境学習

問い 川で遊ぶの危ないとおいか？ ○大人と一緒なら大丈夫！ 50.2% ○場所によって違う 61.4% 3小学校 402名の児童から



子どもは、川で遊べます。遊び方を知っています。遊ばなくなったのは大人では？



このイカダおとん作ったんやで。

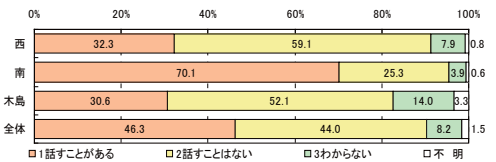


追いかける子

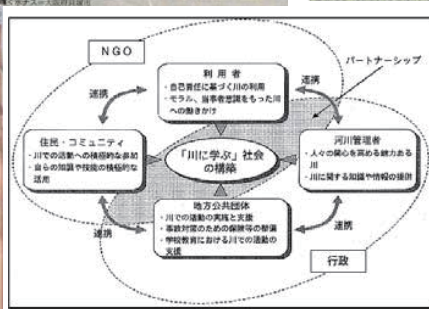
かわっばクラブ京都「車座会議」で発表。彼らの言葉が新聞の見出しに

←平成20年6月 環境学習 (近木川中流)

家庭で近木川の話をしませんかアンケート 調査で3小学校で児童402名から↓



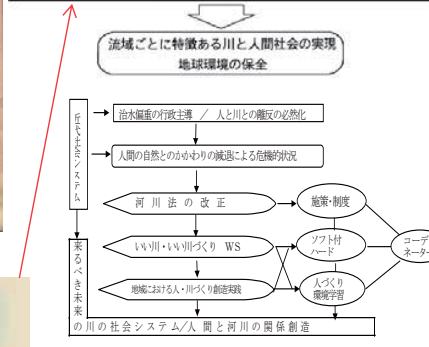
水もしたたる朝型美人  
関西 食百景  
3面に続く



良い言葉は良い働き  
放浪画家 里めぐり

緑深い木立に調和  
放浪画家 秀景スケッチ

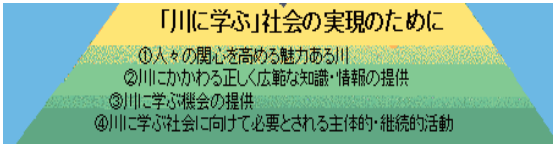
河川法改正  
日本の川をとりもどす



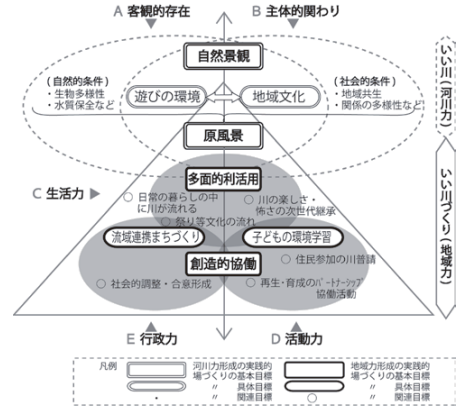
アインシュタイン博士  
・日本では、自然と人間は一体化しているように見えます…  
・たしかに日本人は、西洋の知的業績に感嘆し、成功と大きな理想主義を掲げて科学に飛び込んでいます。けれどもそういう場合に、西洋と出会う以前に日本人が本来もってて、つまり生活の芸術化、個人に必要な謙虚さと質素さ、日本人の純粋で静かな心、それらのですべてを純粋に保って忘れずいて欲しいものです。

弘法大師  
「われ永く山に帰らん」  
満濃池改修灌漑システム  
安藤昌益  
「自然の世」  
柳田国男(民族学者)  
「画一的な農業の近代化は日本文化をダメにする」  
佐藤仁(東大客員教授)  
「画一的な土地利用は人と自然を切り離した」  
桑子敏雄(東工大教授)  
「近代的精神がそれまでの知の世界を隠蔽した」

河川法の改正 ⇒ 日本の川を取り戻す ⇒ 川に学ぶ社会の構築



「いい川・いい川づくり」が図2のように連続的に実現するためには、子どもの環境学習や流域連携まちづくりの具体的活動を通して、住民の河川の多面的利活用と住民・行政の創造的協働により、その河川ならではの自然景観と原風景の回復・再創造に赴くことが必要である。このような川と人のつながりを実現し、「川に学ぶ社会を目指す」\*7河川の典型として近木川をとりあげる。それは国の政策指針「川に学ぶ」社会の実現の4つの基本方針「人々の関心を高める魅力ある川(づくり)」、「正しく広範な知識・情報の提供」、「川に学ぶ機会の提供」、「主体的・持続的な活動のための支援・枠組み」を実践し、かつ全国的状況を反映する典型として位置づけられる。



図「いい川(河川力)・いい川づくり(地域力)のしくみ」

「いい川(河川力)・いい川づくり(地域力)のしくみ」  
 く生活力とは、「日常の暮らしの中に川が流れる」「川の楽しさ・怖さの次世代継承」「祭り・文化の流れ」等の「多面的利活用」をいう。く活動力とは、「子どもの環境学習」「住民参加の川普請」「流域連携まちづくり」等をさす。く行政力とは、行政が担う政策形成、情報提供、技術力駆使に加えて、く活動力との接点に位置づけられる「再生・育成の協働活動」「社会的調整・合意形成」のパートナーシップ力を意味する。「いい川づくり」とは、このような生活力とく活動力とく行政力のつながりによって育まれる「地域力」である。

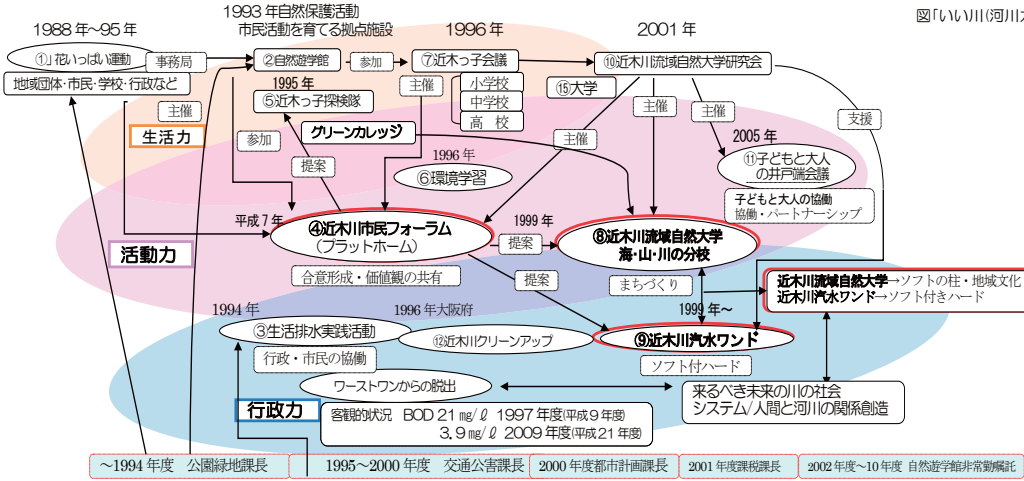
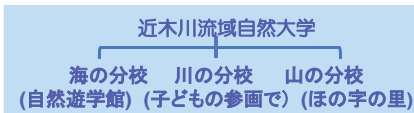


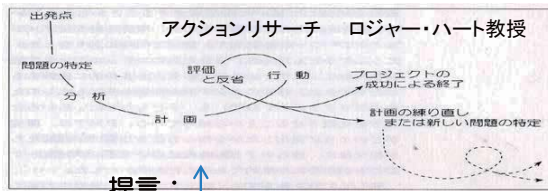
図 近木川の活動体系図 凡例 (活動の場) (活動団体) (地域コーディネーターの役割(貝塚市職員))

(5) 近木川流域自然大学



でも、今はそれができません。フォーラムに集まっているみなさんの力で、ぼくたちが遊べる近木川をつくってください。ぼくたちががんばります。よろしく願います。これで、わたしたちの発表を終わります。

「大きなことを考えずに小さなことを積み重ねること」 ロビン・ムーア教授



いい川 自然がいっぱいあって、汚くても、きれいでも、生物がすめる川 汚くても楽しく遊べる川。  
 いいまち 人の心が穏やかなまち。みんなが幸せに住んで、田舎でもないが過ぎない、都会でも都会過ぎない自然がいっぱいで、みんながいかされるまち。



かき

三三三  
かき

かき

かき

かき

かき

かき



ご静聴ありがとうございました